

1. 4月全国行事

1) 世界保健デー

4月7日

2) 春の交通安全運動

4月6日～4月15日

2. 安全・衛生・防災の心得 : 人力の取り扱い運搬の安全心得

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. 当社の事故・災害事例から : 実験中にフッ酸が足にかかった

5. 環境安全部で所有するDVDの紹介

2. 安全・衛生・防災の心得 : 人力の取り扱い運搬の安全心得

人力による物品の移動や保管等に伴う取り扱い運搬作業は、機械化や合理化などで随分少なくなりましたが、少なくなった分、危険になった傾向も見受けられます。取り扱い運搬災害は、機械等に挟まれたり取り落としたり、転倒や腰痛も後を絶ちません。これらの災害を防止するためには、次の方法や措置を守って行なうことが大切です。

- ①決められた作業用具や道具を正しく使用する。
- ②作業場所を広くつかえるよう工夫する。
- ③作業床や通路などの環境を整備する。
- ④常に職場及び手元の整理整頓を実施する。
- ⑤作業手順や作業環境などで決められている基本作業及び基本動作を守る。
- ⑥持ちにくい物を無理して持たないよう、用具等を改善する。
- ⑦共同作業では連絡、合図を十分行なう。
- ⑧取り扱う物の危険性や有害性を事前に十分チェックし、決められた方法で取り扱う。
- ⑨心身の状態、技能や能力を勘案して無理をしない、させない。
- ⑩非定常作業に際しては、危険を予知し、その対策を講じて作業を行なう。
- ⑪作業開始前にミーティングや準備体操を必ず実施する。
- ⑫保護帽、安全靴、手袋など、決められた保護具等は必ず着用・使用する、など。



画像 オンライン画像※クリエイティブコモンセンスより

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

①新潟工場

イソナイトラインで飛散防止用の薬品補給機を使用していた。



②総合技術研究所

階段に手すりを設置し、転倒防止の対策を取っていた。



4. 当社の事故・災害事例から : 実験中にフッ酸が足にかかった

平成22年3月12日

(1)災害のあらまし

- ①研究所の実験室の天秤台で
- ②55%フッ酸を希釈して5.5%フッ酸を作成中に
- ③55%フッ酸の入った1Lの丸ポリ容器(小分け用)から、直接フッ酸を計り入れていた時
- ④手がすべり、55%フッ酸容器を、計り取っていた5L容器の中に落とした
- ⑤落とした際、55%フッ酸が飛び散り、足に飛んだ(3箇所)
- ⑥ビニール手袋をしていたため、手が滑った
- ⑦1L丸ポリ容器が掴み難かった

(2)被災程度 全治1日

(3)原因、問題点及び再発防止策

- 1)人的要因 フッ酸は毒物であるにも関わらず、ドラフト外で作業していた。
→55%フッ酸を取り扱い場合は、ドラフト内で作業するようにグループ内に徹底させる。
- 2)物的要因 掴み難く、滑りやすい丸ポリ容器を使用していた。
→取っ手の付いているポリ容器に変更。
- 3)管理的要因 フッ酸に対する危険性の再認識。
→フッ酸に対する安全教育を再度行なう。

(4)環境安全部から

- ①フッ酸等危険な薬品を取り扱う際は、使用する前にSDSを確認しましょう。
- ②危険な薬品を扱う際は、必ず保護具を着用しましょう。
フッ酸(5%以上)やシアン化ナトリウム(5%以上)等を取り扱う場合は、不浸透性の保護衣を着用することが義務づけられております。(労働安全衛生法)

5. 環境安全部で所有するDVDの紹介

第1回目は「熱傷・薬傷災害はなくせる」を紹介します。

熱湯やスチームなどの高温物、酸・アルカリなどの有害物は、さまざまな作業現場で扱われ多くの職場で災害が多発。このDVDでは、ポンプの分解中、ホースの取り外し作業中、などの事故例で、熱傷・薬傷災害がどのように発生するのかをわかりやすく示し、どのようにすべきかを具体的に解説しています。

(このDVDを見たい方は、環境安全部まで連絡願います。)